

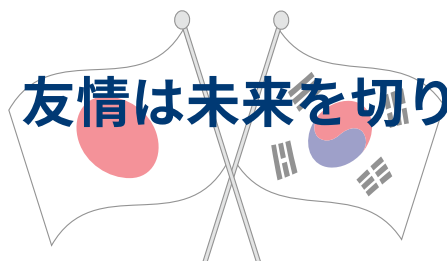


2026年9月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日(月刊定価1部60円)
(購読料はYMCA会費に含まれています)
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 名古屋YMCA広報

YMCA News



友情は未来を切り拓く、最も古くからある力



ソウルYMCA会長 曹圭太
President Cho kyu tae



ソウルYMCAと名古屋YMCAの関係について考えるとき、最初に思い浮かぶ言葉は「友情」です。しかし、両YMCAが長年にわたり育んできた友情は、単に互いの安否を気遣い、親善を深める関係にとどまるものではありません。それは、韓国と日本の市民が互いを理解し、青少年がより良い未来を共に思い描き、平和な東アジアを築いていく実践の歩みでした。国家間の関係は、政治情勢や歴史認識によって近づくこともあれば、遠ざかることもあります。しかし、人と人との関係には、国家間の関係とは異なる特別な力があります。直接会って語り合い、互いの暮らしや文化に触れ、相手の喜びや痛みに共感することで、偏見は薄れ、信頼が育まれていきます。ソウルYMCAと名古屋YMCAが続けてきた交流の意義も、まさにここにあると考えます。

とりわけ青少年交流は、両YMCAの友情を次の世代へとつなぐ、最も重要な架け橋でした。青少年たちは異なる言語や文化の中で成長してきましたが、出会いを通して、自分たちが似たような悩みや夢を抱いていることに気づきました。共に生活し、語り合い、共同体の活動に参加する中で、相手はもはや遠く離れた「他の国の人」ではなく、名前と顔を持つ一人の友人となりました。こうした経験は、教科書や報道を通して得る知識とは異なる、生きた学びです。

今日、青少年が生きる世界は、以前にも増して複雑で不確実なものとなっています。気候危機と自然災害、経済的不平等、戦争と紛争、少子高齢化、デジタル技術の急速な発展、人間関係の断絶と孤立が同時に進行しています。これらの問題は、一つの都市や一つの国の努力だけで解決することは困難です。互いの経験を分かち合い、共通の課題について共に考える国際的な連帯が、ますます重要になっている理由です。

このような時代において、ソウルYMCAと名古屋YMCAの交流は、過去の伝統を継承するだけにとどまってはなりません。長年培ってきた友情と信頼を基盤として、新たな協力の道を切り拓いていかなければなりません。両国の青少年が、気候危機と平和、人権と多様性、地域社会への奉仕と地球市民としての責任について、共に学び、実践できるようにする必要があります。また、青少年指導者や実務者の交流も拡大し、それぞれの

地域で蓄積してきた経験と知恵を共有していくことが求められます。

YMCAは創立以来、青少年を単に未来の主役としてのみ捉えてきたものではありません。青少年は、今日の社会を変えていく現在の主体であり、共同体を担う責任ある一員です。したがって、青少年に必要なのは、一方的に教えられる教育ではなく、自ら語り、参加し、行動することのできる機会です。ソウルと名古屋の青少年が互いの考えを尊重し、共通の課題を解決する経験を重ねていけば、韓国と日本を越えて、アジアと世界の平和を導く市民へと成長していくことができるでしょう。

友情は、何もしなくても自然に維持されるものではありません。繰り返し出会い、互いの言葉に耳を傾け、ときには向き合うことの難しい歴史や現実にも、誠実に向き合わなければなりません。真の友情とは、違いに目を背けることなく、違いを認め、尊重しながら共に歩んでいく関係です。両YMCAが長年にわたり交流を続けてこられたのも、多くの指導者や実務者、会員、ボランティアの皆様が、この努力を積み重ねてこられたからです。

これまでの交流は、私たちにとってかけがえのない財産です。同時に、それは次の世代のために、さらに発展させていくべき責任でもあります。ソウルYMCAと名古屋YMCAの友情が、二つの団体だけの関係を越えて、両都市と両国の市民を結び、より深い理解と、より広い連帯へとつながり、次の世代に向けた和解と平和の道となることを心より願っています。

日韓ユースセミナー 2026

ソウルYMCAと名古屋YMCAは、ユースがお互いの国を訪問し、学びと交流を通して平和を築く活動を、1964年から継続してきました。戦後、日韓基本条約が締結されたのは1965年ですが、国家間の関係が整うより先に、民間レベルでの交流はすでに始められていました。今年はソウルから12名の訪問団が来名し、8月22日～26日まで友情を深める貴重な時間を過ごしました。

能登半島地震・リフレッシュキャンプ2026

能登半島地震で被災した輪島の子どもたち、富山、滋賀の子どもたちが立山に集まりました。能登半島地震発災から2年が過ぎますが、子どもたちはかつての日常生活や様々な体験の機会を失っています。非日常のキャンプを通して、心の重みから少しでも解放される時を作ってあげたいと企画されたキャンプです。茨城、横浜、富山、滋賀、名古屋のリーダー、スタッフが集まりキャンプを運営しました。

地域や学年を超えたつながり

8月10日～13日に行われたリフレッシュキャンプ「雄大立山チャレンジキャンプ」に参加させていただき、サブカウンセラーとして小学4年生から高校2年生の女子グループを担当しました。そこでは、共通の体験を通して生まれるつながりの大切さや温かさに気づくことができました。

キャンプ1日目には、輪島や富山、滋賀から来たグループメンバー全員で、2メートルほどの高い壁を登るイニシアティブ活動を行いました。ジャンプをしても手が届かず、足をかける場所もないため、一人では乗り越えられない壁でしたが、「軽そうな人が先に登ったらいいんじゃない?」「手でジャンプ台をつくれば届くんじゃない?」と、子どもたちは自分たちなりの方法を考えながら挑戦していました。緊張が残る中でも、解決策を一緒に考えたり、互いに支え合ったりする姿から、地域や学年を超えたつながりがうまれていくことを実感しました。その後のキャンプ生活でも、「ここ危ないから気をつけてね!」「見て!これ作った!」「素敵すぎる」と、助け合いや気持ちの共有が見られました。最終日には、「次のキャンプも絶対に行こうね!」「また会おうね!」と再会を約束したり、肩を組んでテ-

マソングを歌ったりする姿が見られ、4日間とは思えないほど深い絆が育まれていました。

このキャンプを通して、人とのつながりは、同じ時間や体験を共有し、互いに支え合うことで育まれることを実感しました。今後子どもたちが安心して関わり合い、つながりを築ける環境づくりを大切にしていきたいです。また、キャンプでの学びを他のリーダーにも伝え、YMCAの活動をさらに盛り上げていきたいです。

(テレハリーダー 富田 小桜)



Road to 125

田中 万寿さん



大人のストレッチ教室に通われている田中万寿さんをご紹介します。YMCAとのかかわりは、1979年岐阜から名古屋へ引っ越してきた際に、近くにあった南山幼稚園に娘さんが通い始めたことです。万寿さんは名古屋に引っ越してから岐阜で高校の先生を

続けられ、名古屋から岐阜に通い、教師の職を続けておられました。娘さんの送り迎えなどはご家族や近くの大学生など様々な方のご協力があつたそうです。

その後、ご家庭の事情でイギリスで2年間生活をされ、小学生の娘さんは現地の学校へ通いました。学校には外国人の子どもへの言葉の教室があり、その受入れに感動し、イギリスに対して懐の深いイメージを持たれたそうです。海外での体験もあり、40代で名古屋YWCAで日本語教師養成講座を受講しました。授業が厳しく、大学よりも勉強したそうです。日本語を教えるボランティアも始められ、最

初は中国在留孤児への日本語を教えました。その後も、日本語学校、国際校など様々な形でボランティア活動をされました。

YMCAとのかかわりが再開したのはこの頃で、交通事故後リハビリを兼ねてYMCAのヨガクラスに通い始めました。ご近所のケーキ屋さんのみずぶさんが声をかけてくれたそうです。それから30年ほどYMCAに通い続けてくれています。

YMCAは大事な存在と語ってくれた万寿さん。今はストレッチ教室に通っている際に、子どもたちの声、姿、描いた絵から元気をもらっています。また、子どもたちが描いた絵、季節で替わる教室の掲示物などみると、先生方の頑張りも感じられるそうです。

様々な自然災害があり、争いが絶えないこの状況の中ですが、「1人でも知っている人がいたらニュースを見ていても感じ方が違うよね」と、最後にお話ししてくれました。知っている人がいると、その出来事への心の寄せ方が変わります。子どもたちや海外の人、様々な人とかかわりを持ち続けられている万寿さんだからその思いがあると感じられました。

日本語学院 お国だより

中国の伝統行事 中秋節

中国には多くの伝統行事があり、その中に「中秋節」という伝統行事があります。中秋節は旧暦8月15日に祝われ、家族が集まって一緒に過ごす、とても大切な祝日です。中秋節は3日間の連休になることが多く、多くの人が実家へ帰ったり、旅行に出かけたりします。



そのため、高速道路や駅、空港はたくさんの人でにぎわいます。

中秋節の夜には、テレビで「中秋晚会(ちゅうしゅうばんかい)」という特別番組が放送され、家族と一緒に番組を聞いて、丸い月を眺めながら、「月餅(げっぺい)」というお菓子を食べます。月餅は丸い形をしていて、家族の団らんや幸せを表しています。あんこやナッツ、卵の黄身など、さまざまな味があり、最近ではアイスクリーム味やチョコレート味なども人気です。



また、中秋節には家族や親戚だけでなく、お世話になった人へ月餅を贈る習慣もあります。もし中国を旅行したら、ぜひ中秋節の夜に満月を眺めながら月餅を食べ、中国ならではの温かい家族団らんの雰囲気を感じてみてください。

(スーチー)

総主事コラム

お米×お水×愛

「すべての子どもたちに自然体験を」をテーマにした学童キャンプは、今年で11年目を迎え、5泊6日のキャンプを2期、無事に実施することができました。特に、7人に1人が相対的貧困状態にあると言われている子どもたちに対し、夏休み期間中の安全・安心な居場所を提供し、夏休み一番の思い出をつくって欲しいと願っています。

今年も例年以上に元気いっぱいの子供たちは標高1400mの涼しい大自然の中で、一日中活動を行い、日を追うごとに早寝早起きに。そして、例年のごとく食欲旺盛で食べ残しはほとんどありません。何よりもお米が美味しく、白米だけで食事する子どももいます。メニューがハンバーグのある夜、お肉が食べられない女の子が白米だけを食べているので「ふりかけでも持ってこようか?」と声をかけたところ、「お米が甘いからいらない」と見事に断られてしまいました。

連載 事業所紹介

YMCAかみさわ保育園

創立13年目を迎えるかみさわ保育園では、10周年記念事業として「子どもがのびのびと遊び、過ごすことのできる園庭づくり」を進めてきました。今年度に入り、見通しの良い園庭に、子どもたちが体を動かして楽しめる遊具を整備し、限られたスペースながらも木々や花、虫たちが息づく自然豊かな環境が少しずつ形になっています。子どもたちは、その園庭で元気いっぱい遊び、季節の変化を感じながら日々を過ごしています。

日々の保育では、仲間や先生とともに自然に触れ、思いきり遊び、体を動かす経験を重ねることで、子どもたちの心と体の豊かな育ちにつながると考えています。こうした一つひとつの経験を丁寧に受けとめ、子ども自身が考え、挑戦しようとする姿を大切に見守っていききたいと思います。

施設の3階には児童発達支援・放課後等デイサービスが併設されており、保育園とデイが積極的に連携することで、YMCAが目指す共生社会の実現に向け、地域の子ども一人ひとりの育ちを継続的に支える取り組みを進めています。

今後も、家庭・地域・関係機関との協働をさらに深めながら、子どもの育ちを地域全体で支える仕組みづくりを推進していきたいと考えています。

(園長 東田 美保)



このお米は元学生ボランティアリーダーで現在は農家を営む方から玄米でご寄付いただき、直前に精米してキャンプ場に運んでいます。そして同じく元リーダーのシニアボランティアの方が、愛情を込めて毎食の調理を担当してくださっています。精魂込めて育てられた最高のお米を、御岳山の伏流水を用い、愛情込めて炊かれたご飯が美味しいのは当然の事。お米×お水×愛に勝るものはありません。食材として使用している玉ねぎも、南山ハーベストクラブのみなさんが苗植えから草抜きまで丹精込めて育ててくださったものです。晴天が続けば水不足を心配し、暑さに文句を言う前に苗が枯れないよう水やりに気を配る——そんな思いが詰まった貴重な食材です。

朝食用のお米を前夜に研いで冷蔵庫で冷やし、「こうするとお米がさらに美味しくなる」と自慢げに語るシニアボランティアの姿はまるで少年のように輝いていました。キャンプを支えてくださるすべてのボランティアの皆さまに感謝するとともに、「来年も必ず来るから」と言ってくれる子どもたちの成長にも感謝です。

(中村 隆)

熊本地震緊急支援募金

2026年7月28日(火)午後4時27分頃、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、県内では最大震度7を観測しました。各地で建物やインフラなどに甚大な被害が生じ、現在も多くの方々が避難生活を余儀なくされています。

8月24日現在、約2,700人が避難所での生活を続けており、その中には、夏休みを過ごす子どもたちの姿もあります。復旧が進む一方、被害の状況には地域による差が大きく、特に鉄道をはじめとする交通インフラの復旧には時間を要しています。そのため、被災地では今なお、日常の生



活を取り戻すための支援が必要とされています。

私たち名古屋YMCAは、被災された方々に寄り添い、一日も早く子どもたちが安心して日常を取り戻せるよう緊急支援に取り組みます。また熊本YMCAは、八代トヨオカ地建アリーナ(総合体育館)および鏡コミュニティセンターの2か所の避難所の運営を担うことになりました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

【支援金振込先】

三菱UFJ銀行 きよなみ支店 普通 1117991
ザイナゴヤエイムシー

※YMCA各拠点窓口でも受け付けております。

【募金使途】

- 被災地および近隣YMCAと協働で行う、熊本地震の被害を受けた地域への支援活動
- YMCAが関係する災害支援団体との協働で行う支援活動
- 熊本YMCAによる八代市の避難所運営活動

維持会員感謝・ご寄付感謝

※ご寄付をいただくタイミングによっては、掲載が前後する場合がございますのでご了承ください

維持会員(継続)

伊藤 暢浩 加藤 満 磯部 徹 林 敦子 井上 剛志 平井 真希 伊左治 真 川口 恵
星島 和空 深尾 俊雄 荒川 文門 平野 実郎 久保田 啓 深谷 萌菜 正木由樹奈 酒井 陽向
高井 文 中山 結麻 橋本 啓 藤田 瑠美

賛助会員(継続)

オリエンタルビル株式会社 タイガー総業株式会社 ホーユー株式会社 日研オフィスシステム株式会社
中部日本放送株式会社 敷島製パン株式会社 株式会社イズミック 豊田通商株式会社 株式会社矢場とん
株式会社テツタニ 岡谷鋼機株式会社 日本特殊陶業株式会社

寄付金・募金

(国際協力募金) 谷口みきこ 高藤 鈴華 大野 莉央 中井 信幸 鶴田 志帆

(学童キャンプ) 下村 徹嗣 田中 万寿 渡辺 真悟 藤田 瑠美

小尾 雅彦 加藤 明宏

(日韓ユース) 名古屋ワイズメンズクラブ

(こひつじ保育園10周年記念募金) 平井 真希 藤田 瑠美

(熊本緊急支援募金) Cho Sunghwan 吉川 裕子 徐 彦誠

(一般寄付) 深谷 聡 荒川 恭次 北村 称子 奥村 裕之

早天 祈祷会

日 時 9月1日(火) 7:45～
会 場 名古屋YMCA5Fチャペル
奨 励 中京教会牧師
稲田勝之先生

お問い合わせ

名古屋YMCA 052-757-3331
YMCAこひつじ保育室 052-757-5530
南山ファミリーYMCA 052-831-6968
南山幼稚園 052-831-8271
神沢ファミリーYMCA 052-879-6300
YMCAかみさわ保育園 052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院 052-531-0077
発達サポートYMCAかみさわ 052-879-6300
かりやYMCA保育園 0566-62-8227



<https://nagoyaymca.org>

名古屋YMCA 使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2026年度聖句

「平和を実現する人々は、幸いである。」
マタイによる福音書 5章9節